

サポート支援ツール mlzbxinfo 利用ガイド

サイバートラスト株式会社
更新日 2025/03/31
文書番号 ML-CS-3298



Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

目次

第 1 章	はじめに	2
第 2 章	同梱物一覧	3
第 3 章	動作環境	4
3.1	対応 OS	4
3.2	対応データベースサーバ	4
3.3	対応する Zabbix サーバ	4
第 4 章	インストール・アップデート手順	5
4.1	Zabbix サーバへの影響	5
4.2	バージョンの確認手順	5
4.3	インストール手順	5
4.4	アップデート手順	5
第 5 章	実行手順	7
5.1	mlzbxinfo の実行オプション	7
5.2	MIRACLE ZBX サーバへの影響	8
5.3	mlzbxinfo 実行手順	9
5.3.1	十分な空き容量がある場合	9
5.3.2	十分な空き容量がない場合	10
5.3.3	空き容量が不足している場合	10
第 6 章	データベースに対する設定	12
6.1	MySQL の場合	12

MIRACLE ZBX はサイバートラスト株式会社の登録商標または商標です。

MIRACLE ZBX はサイバートラスト株式会社により作成され、バージョン 6.0 までは GNU GPLv2、バージョン 7.0 以降は GNU AGPLv3 に基づいて配布されています。ソースコード形式及びバイナリコード形式での複製、改変、再配布が許諾されています。お客様は、この許諾条件に同意いただいた場合に限り使用できます。

Asianux はサイバートラスト株式会社の日本における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国及びその他の国における、登録商標または商標です。

RPM の名称は、Red Hat, Inc. の商標です。

その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

1 はじめに

mlzbxinfo は、Zabbix サーバーもしくは Zabbix プロキシが稼働しているホストの各種ログやハードウェア情報、インストールされているパッケージ情報、MIRACLE ZBX の設定やログなど、さまざまな情報を取得するためのツールです。なお、mlzbxinfo の取得情報の中には、root ユーザでしか取得できないものもあるため、mlzbxinfo コマンドは root ユーザで実行します。

2 同梱物一覧

mlzbxinfo には、以下のマニュアルとプログラムが含まれています。

名称	ファイル名
利用ガイド	MIRACLE_ZBX_Support_Assistant_Tool_Mlzbxinfo_Users_Guide.pdf
実行プログラム	全対応 OS 共通 mlzbxinfo-<version>.ML.noarch.rpm

3 動作環境

本製品の動作環境を示します。

3.1 対応 OS

本製品は以下に示す OS の x86-64 版に対応します。

- RHEL 9 系 OS *1
- RHEL 8 系 OS *1
- RHEL 7 系 OS *1
- Amazon Linux 2

*1 各 OS に類似した OS もサポートされます。サポートする OS の一覧については以下を参照してください。

<https://www.cybertrust.co.jp/zabbix/requirements.html>

3.2 対応データベースサーバ

本製品は各ディストリビューションに標準で含まれている MySQL、MariaDB および PostgreSQL サーバに対応します。

3.3 対応する Zabbix サーバ

本製品は以下に示すバージョンの Zabbix サーバに対応します。

- 4.0
- 5.0
- 6.0
- 7.0

4 インストール・アップデート手順

本製品のインストールおよびアップデート手順を解説します。mlzbxinfo の実行には使用しているデータベースのコマンドが必要となりますので、事前に使用しているデータベースのパッケージのインストールが必要となります。

4.1 Zabbix サーバへの影響

稼働中の MIRACLE ZBX サーバにインストールおよびアップデートをしても、MIRACLE ZBX の設定や監視動作には影響ありません。

4.2 バージョンの確認手順

<version>部分にパッケージバージョンが表示されます。

```
# rpm -qa mlzbxinfo
mlzbxinfo-<version>
```

4.3 インストール手順

1. GPG キーをインポートします。
以下のコマンドを root ユーザーで実行します。

```
# rpm --import https://ftp.miraclelinux.com/pub/zbx/RPM-GPG-KEY-MIRACLE-4096
```

2. データ取得を行いたいサーバ上にパッケージをインストールします。
以下のコマンドを root ユーザーで実行します。

```
# rpm -ivh mlzbxinfo-<version>.ML.noarch.rpm
```

4.4 アップデート手順

以下のコマンドを root ユーザーで実行します。

```
# rpm -Uvh mlzbxinfo-<version>.ML.noarch.rpm
```

5 実行手順

mlzbxinfo の実行手順を解説します。

5.1 mlzbxinfo の実行オプション

通常はオプションを一切指定せずとも実行可能ですが、「-h」を付与して実行することにより詳細なオプション内容を表示可能です。

なお DB に MySQL を使用しており、バージョンが 5.7.31 以降である場合、実行ユーザーに PROCESS 権限が必要になります。後述の「データベースに対する設定」章を参考に権限の設定を行ってください。

```
# /usr/sbin/mlzbxinfo -h
Usage: mlzbxinfo [options]

    -u db_user      ZABBIX DB user (default: by zabbix_server.conf)
    -B db_name      ZABBIX DB name (default: by zabbix_server.conf)
    -H db_host      ZABBIX DB host (default: by zabbix_server.conf,
                   otherwise localhost)
    -P db_port      ZABBIX DB port (default: by zabbix_server.conf,
                   otherwise mysql:3306, postgresql:5432)
    -S db_socket    ZABBIX DB socket instead of host/port (don't use
                   with -H or -P, default: by zabbix_server.conf)
    -s             Skip to collect all databases
    -x             Skip to collect history/trends from database
    -n             Skip to collect log, run mcinfo with -n
    -M n_days      Skip to collect older than n_days log
    -I             Skip to run mcinfo command
    -C             Skip to run all commands
    -m             Collect snmptt log
    -l line_num     Number of history/trends records (default 1000)
    -t compress_type Set tar compression from 'xz', 'bz2', 'gz', 'none'
                   (default 'gz')
    -p priority     Process priority of mlzbxinfo from -20 to 19 with
                   lower number being higher priority (default 10)
    -i io_priority  Set I/O priority of mlzbxinfo from 0 to 8 with
                   lower number being higher priority (default 7)
    -o out_directory Set output directory
    -h             Show this help

If '-u' or '-B' are set, program requires to input database password.

Environment variable

    TMPDIR          Path to working directory (default: /tmp)
```

5.2 MIRACLE ZBX サーバへの影響

デフォルトの設定では、mlzbxinfo 実行時に一時的に CPU 負荷が上昇致します。

MIRACLE ZBX サーバが極端に高負荷な状況でなければ監視動作に影響はありません。

影響を最小限にするためのオプション「-t」,「-p」,「-i」も用意しており、例えば「/usr/sbin/mlzbxinfo -t gz -p 19 -i 8」を指定した場合は、ログデータ圧縮に負荷が比較的軽い gz 圧縮方式を使用し、プロセスの実行優先度を最低にし、IO の使用優先度も最低にし、他のプロセスが IO を使用していないタイミングでのみ動作するようになります。

5.3 mlzbxinfo 実行手順

MIRACLE ZBX サーバにて以下の操作を実行します。

```
# /usr/sbin/mlzbxinfo
```

実行をすると以下の表示がされ、ファイルの生成時に必要なディスク容量が計測されます。

```
Measuring required disk space.
```

計測した必要なディスク容量と環境変数「TMPDIR」で指定する作業ディレクトリ、「-o」オプションで指定する生成したファイルの出力先ディレクトリの空き容量によってこの後の動作が異なります。

また、計測した必要なディスク容量は、時間経過によるログの増加などの要因から実際にファイル生成時に使用するディスク容量と誤差が発生する可能性があります。

5.3.1 十分な空き容量がある場合

作業ディレクトリの空き容量が必要なディスク容量の三倍以上、かつ出力先ディレクトリの空き容量が必要なディスク容量以上の場合、確認は行われず、そのまま実行が継続されます。

```
Approximate required disk space: XXXX MB
Available disk space on TMPDIR(/tmp): XXXX MB
Available disk space on output directory(.): XXXX MB

=== mlzbxinfo: eval mysqldump_zabbix_db_schema ===
=== mlzbxinfo: eval mysqldump_zabbix_db zabbix zabbix -pzabbix ===
=== mlzbxinfo: eval mysqldump_zabbix_db_history zabbix zabbix 1000 -pzabbix ===
...(中略)...
=== mlzbxinfo: cp /var/log/sa ===

Making "mlzbxinfo-zbx-server-20190322064511.tar.gz"... Done
```

実行が完了しますと、「mlzbxinfo-」で始まる名前のファイルが生成されます。

このファイルを MIRACLE ZBX サポートへ送付ください。

十分な作業ディレクトリの空き容量の条件に必要なディスク容量の三倍以上としているのは、作業ディレクトリと出力先ディレクトリに同じものを指定した際に、必要なディスク容量の誤差を考慮した上でファイル生成を行うためです。

5.3.2 十分な空き容量がない場合

作業ディレクトリの空き容量が必要なディスク容量以上三倍未満、または出力先ディレクトリの空き容量が必要なディスク容量未満の場合、以下のように表示され継続の確認が行われます。

```
Approximate required disk space: XXXX MB
Available disk space on TMPDIR(/tmp): XXXX MB
Available disk space on output directory(.): XXXX MB

Available disk space on TMPDIR is less than 3 times required disk space.
Recommend to increase available disk space or set another path to TMPDIR.

Available disk space on output directory is less than data size before compression.
Recommend to increase available disk space or set another path to -o option.

Do you want to continue? [y/n]:
```

必要なディスク容量、作業ディレクトリ、出力先ディレクトリの空き容量が表示されますのでご確認ください。

問題がある場合は「n」を入力し、エンターキーを押してください。ファイルを生成せずに、実行を終了することができます。

問題がない場合は「y」を入力し、エンターキーを押してください。実行が継続され、「mlzbxinfo-」で始まる名前のファイルが生成されます。

このファイルを MIRACLE ZBX サポートへ送付ください。

5.3.3 空き容量が不足している場合

作業ディレクトリの空き容量が必要なディスク容量未満の場合、以下のように表示され実行が失敗します。

```
Error: Available disk space is less than required disk space.
Please increase available disk space or set another path to TMPDIR.
```

作業ディレクトリの空き容量を増やすか、環境変数「TMPDIR」に他のディレクトリを設定して、再度実行してください。

例えば、「TMPDIR」に /var/tmp を指定する場合は以下のようにコマンドを実行します。

```
# TMPDIR=/var/tmp /usr/sbin/mlzbxinfo
```

一部のデータを取得する必要がないことがわかっている場合などは以下のオプションを付与することで取得内容を変更することができます。

- 「-s」：すべてのデータベースを取得しない
- 「-x」：データベースのうち、ヒストリおよびトレンドを取得しない
- 「-n」：ログを取得せず、mcinfo コマンドに-n を付与して実行する
- 「-M n_days」：n_days 日より古いログを取得しない
- 「-I」：mcinfo コマンドを実行しない
- 「-C」：すべてのコマンドを実行しない
- 「-m」：snmpptt ログを取得する
- 「-l line_num」：ヒストリおよびトレンド取得時に line_num 行だけ取得する

6 データベースに対する設定

6.1 MySQL の場合

PROCESS 権限の付与の方法を説明します。

1. 使用しているバージョンの確認手順

以下のコマンドで MySQL のバージョンを確認します。なお MariaDB を使用している場合は PROCESS 権限の付与は不要です。

```
# mysql -uroot -p
Mysql> select version();
+-----+
| version() |
+-----+
| 8.0.26    |
+-----+
```

5.7.31 より新しい場合は次の PROCESS 権限の付与を行ってください。MariaDB の場合は「10.3.27-MariaDB」のように末尾に名前が付きます。この場合は権限の付与は不要です。

2. 次の実行例は zabbix ユーザに PROCESS 権限を付与します。

```
Mysql> grant process on *.* to zabbix@localhost;
Mysql> exit
```

なお、現在付与されている権限を確認する場合は以下のコマンドを実行してください。

```
Mysql> show grants for zabbix@localhost;
```